

先端ソフトウェア工学研究所 Advanced Software Engineering Laboratory

研究所の概要

本研究所では、従来のソフトウェア工学の範囲を超えて、アジャイル開発技術、サービスデザイン、UI/UX、デジタルトランスフォーメーション等にも研究対象を広げ、社会に有益な先端的ソフトウェア工学の研究開発を行う。

我が国が目指す Society 5.0 の実現のためには、IoT で全てのものが繋がり、ロボットや自動走行車など新しい技術によるイノベーションが必須である。それらの全てにおいて中核技術としてソフトウェアが用いられており、AI やビッグデータ等の高度先端技術を活用したソフトウェアの開発・運用・保守等に関する発展的・応用的な研究の重要性は高まるばかりである。従って、ソフトウェア工学に関する研究はますます重要になる。

ところが、我が国においてはソフトウェア工学に関する研究機関が少ない。また、研究者同士の連携も十分ではない。加えて、産業界では従来の教科書的なソフトウェア工学の範囲では対応できない新しい知見が生まれており、アカデミアが追従できていない状況でもある。

そこで、新たに本研究所を設置し、最先端のソフトウェア工学に関する知見を集約し、さらに発展的・実践的な学術体系として整備し、社会へ広く還元することを狙う。また、ソフトウェア工学は人間系を含むエンジニアリング分野であるため、技術人材育成のための教育に関する研究も広く行っていく。



所長

中鉢 欣秀

CHUBACHI Yoshihide

キーワード

ソフトウェア工学、アジャイル開発、サービスデザイン、UI/UX、デジタルトランスフォーメーション

令和5年度の実施項目

- PMI Disciplined Agile (DA) 知識体系とアジャイル開発に関する研究の推進
- 産学連携によりソフトウェア工学に関する現状認識の共有、課題発見につなげる意見交換会等
- 先端的なソフトウェア工学研究の事例調査・ニーズ分析等
- 研究成果の発表

令和4年度の研究活動内容及び成果

本年度はコロナの影響を受け、当初予定していた事例調査等が思うように進まなかったものの、次の研究活動を行った。

- 産業界で実施されているソフトウェアのアジャイル開発プロジェクトにおいて、近年注目される PMI Disciplined Agile (DA) 知識体系を用い、アジャイルチームの継続的な改善の過程において、チームの状況把握と課題解決のための実践的プラクティスの選択のために同知識体系を活用するための方策について探った。
- この取組を進めるため、新たに5名の研究員を追加し、研究体制の拡充を行った。
- 2023年2月に、情報処理学会要求工学WGにて研究会発表を行った。

➤ <https://researchmap.jp/ychubachi/presentations/41625485>